

かわぐち

2005. 10 月号 No.384

今月の主な内容

- 小高地区集団移転先造成計画まとまる…2~3
- 長寿を祝って敬老老人福祉のつどい……4
- 石綿を取り扱った方は
健康診断を受けましょう……5
- わたしの主張 2005 開催 ……6~7
- 震災一周年関連イベント紹介……8

ほか



みんなで走った！笑った！お別れ運動会
—小高地域大運動会—

9月23日、小高集落開発センター広場で小高地域大運動会が開催されました。雨の日でも中止することなく続けられてきた運動会も今年で52回目。震災で全世帯が移転することから半世紀以上続いた運動会は、小高では今

年で最後になります。名残りを惜しむように子どもからお年寄りまで約80人が参加。アベック二人三脚やパン食い競争、ラムネやビールの早のみ競争、ちょうちんレースなどユニークな16種目の競技に参加者の笑い声が絶えませんでした。運動会の締めくくりに行われた小高の盆踊りの太鼓の音が、「最後の運動会」を惜しむように地区全体に鳴り響いていました。

震度7！ その時わたしは

かつて経験したことのない震度7の激震に襲われた時の皆さんの体験談を紹介します。

※あなたの震災体験を広報かわぐちでは募集しています。問い合わせ 企画商工課 ☎89-3112

外食のために外に出たとき

江島 芳昭 (牛ヶ島)



若手夫婦と長岡市で食事をするために自宅の裏口から外に出た時、ズドンという地響きとともに体が突き上げられた。私は裏手の河原にジェット機が落ちたのではなにかと思った。周りの電柱は大きく揺れ、火花が散って辺りは暗くなった。妻が家の中にいたので、とにかく外に出そうと玄関の扉を開けたが、下駄箱がすべて倒れて中に入れない状況になってしまった。私は無我夢中で下駄箱のベニヤを割って家中の中に入り、「大丈夫か」と妻

に声をかけた。「大丈夫」と声がかえってきた。「すぐ外に出ねばだめだ」と叫ぶと、動かんねえ」と玄関近くまで這ってきていた妻が言った。中戸を開けてきた口におつかった。その時は必死で分かんかったが、後に口の辺りが切れ、歯が折れていることが分かった。まだ揺れている中で、3メートル程の距離がとても長く感じられた。妻を抱き上げてようやく外に出た私は「この世の終わりでねえか」と思いながら、妻と二人抱き合っていた。その後、近所の人たちと合流。地区のチームワークがとても良く、自然にそれぞれの役割分担ができ、一人で悩むことがなかった。避難生活はすべてが大変だったが、良い経験になった。

和楽美の湯で仕事中に

笹崎 桂子 (小高)



和楽美の湯で仕事をしていた。お客さまにラーメンを運ぶためにワゴンを押していた時、ゴーという音がした。その瞬間ドーンと突き上げるように揺れ、次々に自動販売機が倒れ、非常扉が閉まりドンドンとももの凄いな音が続いた。私はしゃがみながらワゴンにしがかりがみついていた。何が起こったのかわからず、飛行機でも落ちたのかと思った。自動販売機が倒れた時、お客さまが下敷きになったように見えたので、私は這って自

動販売機まで行った。幸いお客さまにケガがなく安心した。2回目の揺れがおさまった後、お客さま全員を急いで外に出し、私も大広間に誰もいないことを確認して外に出た。外はあちこちで地面が割れていて居場所がなかった。その時私は地震の恐怖とお客さまや従業員たちのことを心配し、パニック状態になっていた。ケガ人がいたので、午後9時過ぎ小千谷市木津まで迎えに来る救急車で搬送された。その道中は裂け、崩落したところばかりで、恐ろしく震えがとまらなかった。今思い出してもゾツとする。2日間、和楽美の湯前にいたので家族と連絡がとれず心配でしたが、お客さまに温かいようなんや、もちなどを協力して作ってもらいご馳走していただいたことがうれしかったです。

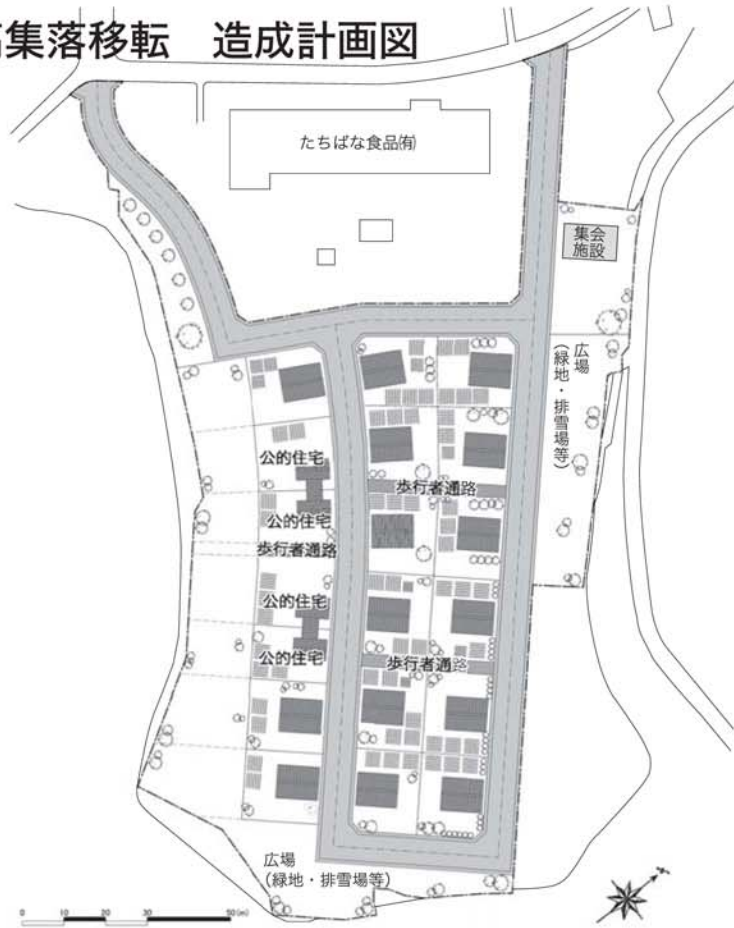


小高地区集団移転

移転先造成計画まよまる

小高地区の集団移転先の西川口岩出原地内の造成計画がこのほどまとまり、9月14日岡平仮設住宅集会所で移転予定者による造成地の区画宅地（町から賃貸予定）の抽選会が行われました。この内容などをお知らせします。

小高集落移転 造成計画図



地区住民と検討を重ねた移転先造成計画

小高地区の集団移転については、用地取得や造成、公共施設整備への補助、移転先での個人住宅建築に対する利子補給などで有利な、「防災集団移転促進事業」により進めることとして国や県と協議を重ねてきました。その結果、7月12日に、集団移転にかかる全体事業計画について国の同意を得たので、これを受け最終的な造成計画を小高地区住民と検討し、この度その計画がまとまったものです。



移転予定者からの要望により抽選会を開催

9月14日の抽選会は、移転予定者の強い要望をうけて実施したもので、星野和久町長も出席する中、住宅建築予定者15戸分と公的な賃貸住宅4戸分の位置が決定しました。

今後の予定は

町では現在、用地取得と工事の設計などを行っており、10月下旬の造成工事着手を目指すとともに、来年秋までには全ての移転が完了できるよう事業を進めていく予定です。なお、当該移転地以外に個別で

▲宅地抽選会の様子

小高地区を災害危険区域に指定

防災集団移転促進事業やがけ地近接等危険住宅移転事業の採択要件である、小高地区の災害危険区域の指定が9月6日付けの県報に告示され正式に決まりました。

指定の内容

・区域の名称：小高
・区域面積：約85、570㎡
（小高地区の被災前の既存家屋を中心に、周辺の農地等を含め

地番を指定)

・建築の制限
県の建築基準条例（第7条）により、災害危険区域内においては、原則的に住居の用に供する建築物を建築してはならないことになっています。
しかし、作業場や倉庫等の建築は可能で、区域内の農地も耕作は可能です。

問い合わせ 企画商工課

☎ 89-3112

ガス・水道・下水道 復旧作業急ピッチ

工事区間の交通規制などにご協力ください

町ではガス・水道・下水道のライフラインと道路舗装の復旧を早期に完成させるため、作業を急ピッチで進めています。

工事区間での交通規制やガス管移設工事によるガスの供給一時停止などによりご迷惑をおかけしていますが、今後も町民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ 公営企業復旧班 ☎ 89-4416



震災復興祈念

美術特別展・中越地震写真展を開催

震災1周年を間近に迎え、震災復興祈念事業の一環として、世界のトップアーティストとしてご活躍の画家須藤眞啓氏の美術特別展、中越地震写真展を行います。ぜひお越しください。

●川口町美術特別展 須藤眞啓の世界

期間 10月5日(水)～10月21日(金)
10時～19時 (21日は15時まで)
会場 交流体験館「杜のかたらい」

●写真展 新潟県中越地震「あの時を忘れない」

震度7 震源地からのメッセージ
期間 10月22日(土)～10月30日(日)
会場 交流体験館「杜のかたらい」

問い合わせ 企画商工課 ☎ 89-3112
教育委員会 ☎ 89-2119
交流体験館「杜のかたらい」 ☎ 81-4404

移転する世帯については、がけ地近接等危険住宅移転事業により、個人住宅建築に対する利子補給など、集団移転する世帯と同様な支援を行うこととしています。

造成計画の概要

- ・入居戸数19戸（うち公的住宅入居4戸）
- ・住宅団地面積 約14、560㎡
- ・合計宅地面積 約6、106㎡（公的住宅分含む。宅地は平均約95坪）
- ・関連公共施設等 道路（幅員7m）延長約500m

- ・集会施設1棟
- ・広場、公園、歩行者通路など
- ・事業期間 平成17年度～18年度
- ・事業内容 用地取得費、用地造成費、住宅建設等の利子補給、公施設整備など（集団移転促進事業計画による）

問い合わせ 企画商工課

☎ 89-3112

わたしの主張 05小千谷・魚沼・川口地区大会

星野桃果さん (川口中3年)

優秀賞に輝く

8月19日、小千谷市民会館においてわたしの主張05小千谷・魚沼・川口地区大会が行われ、川口中学校3年生の星野桃果さんが「ありがとう」そしてこれから」という題名で中越大震災での人の温かさに対する感謝の気持ちを発表し、優秀賞に選ばれました。

この大会は、中学生が日頃考えている意見を発表することで、自ら心身づくりや、地域がその健全育成に対する理解を深めることを目指しており、小千谷・魚沼・川口地区の各中学校の代表12人がそれぞれ「わたしの主張」を発表しました。優秀賞を受賞した星野桃果さんの「わたしの主張」を紹介します。

「ありがとう」そしてこれから

川口中学校3年

星野 桃果

私たちはどうするだろうか。見知らぬ人が不幸に襲われ、不自由な生活を強いられるとわかったら。私は忘れない。名前も知らない町の、名前も知らない私たちを助けてくれた人たち。たくさん、たくさんの人たちを。

平成十六年十月二十三日午後五時五十六分。中越大震災。二階の部屋

で音楽を聴いていた私。突然身の回りの全てが大きな音に変わり、耳に突き刺さった。電気が消えた。真っ暗になった。激しく家はきしみ、電話機の異常を示す警報音が鳴り続けた。不気味だった。

「お姉ちゃん」と叫ぶ妹の声があった。頭の上の本を払いのけて妹の所へ手探りで行った。「おじいちゃん！」私は一階にいる祖父を呼んだ。返事があった。すぐに来てくれた。懐中電灯に照らし出された室内の様子に驚いた。机はひっくり返っていた。玄関棚は倒れめちゃめちゃだった。玄関

節を考え、たくさん衣類、食料などの生活用品をまとめておくってくださった会社がたくさんあった。うれしかった。本当に助かった。そしてグループや学校、個人でメッセージや物資を贈ってくださった皆さん。どれだけその気持ちに勇気づけられたことか。

町の復旧・復興にたくさんの方から物質的にも精神的にも、本当に助けていただいた。人と人とのつながり、社会と人とのつながり。私たちがお互いに知らなくても、これほどまでに支え合おうとする存在なのだ。そう思うとうれしくて、うれしくて本当に「生きていく」ことが幸せに感じられた。

地震の後、記録的な豪雪に見舞われた。ここでも多くの人から心配し



ていただき、助けていただいた。今の私の学校には、百三十八戸の仮設住宅がグラウンドに建っている。そこから通う友人も多い。しかし、私たちの町は少しずつ明るさを取り戻している。あの時、私たちを励まし、助けてくれた人たちは今、もとの生活に戻っているだろう。その人たちに、私は感謝の気持ちを届けたい。「ありがとう、本当にありがとう」日本中に、そして世界中に届けたい。「ありがとう、本当にありがとう」川口町は、そして私たちは今、頑張っています。これからも頑張っていきます。

そして私は今、やりたいことがある。それはボランティア活動に参加することだ。今までしていただいたことを、今度は私がお返ししたいと思うからだ。どこかで見知らぬ人が、不幸に襲われ、不自由な生活を強いられているとわかったら。私なら、両親に変わって小さい子どもの面倒を見てあげたい。そして元気になってほしい。私もそうして元気になれるのだから。

「ありがとう」そしてこれから。



星野桃果さん (前列右から2番目)

まで行き、びしょぬれの靴を履いて外にでた。水槽が割れていた。

私は不安に押しつぶされそうだった。真っ暗な闇への不安。連絡の取れない両親への不安。繰り返し襲ってくる余震への不安。正直、地球の終わりだと思った。生まれて初めて「死ぬかもしれない」と感じた。身体が冷たくなっていくようだった。顎が震えて歯がカチカチカチ鳴った。

そんな私にまず、声を掛けてくれたのは、近所の人たちだった。暗闇の中で、聞き慣れた優しい言葉が温かった。そして心強かった。

その晩は役場の前で野宿した。寒さと余震への不安からほとんど眠れなかった。ラジオが聞こえていた。伸のよかった小学生が亡くなったこ

とを知った。信じられなかった。満天の夜空に何度も流れ星を見た。

翌日から地区ごとの「炊き出し」が始まった。そこでは本当に親切にしていた。何もできない自分。それなのにたくさんの方が優しく接してくれた。だから不自由や不安の中で元気が出てきた。

しかし、こんな私を元気にしてくれたのは、身近な人ばかりではなかった。今までに会ったことのない人もたくさんいたのだ。

まず、自衛隊の皆さん。「どんなことをしてもらったの？」と聞かれたら、「何もかもしてもらった。」と答えた。本当に助けていただいた。飲料水の手配から、炊き出したの温かいご飯、温かいお風呂、家には入れない人へのテント設置など、していただいたことを全て並べていったら、ここには収まらない。

次にボランティアの皆さん。地震の報道を見て、どれほど多くの方が駆けつけてくれたことか。私は驚きと感動でいっぱいになった。知らない町、知らない人を助けようとする人がこれほどまでにいるのか。電気も水道も使えず、自分たちだって不便なのに、どれだけ精一杯私たちに勇気づけ、手伝ってくれたことか。また、支援物資や義援金を贈ってくださった皆さん。寒さに向かう季

大会結果のお知らせ (敬称略)

第40回町内小学校親善運動会

(9/21 川口小学校)

- 1位のみ掲載
- ◆100m走
 - 5年男子 堀沢 和磨 (川口小)
 - 5年女子 水落かおる (田麦山小)
 - 6年男子 関 和貴 (川口小)
 - 6年女子 真島 美香 (川口小)
- ◆80mハードル
 - 5年男子 武士侯亮太 (川口小)
 - 5年女子 森山 由未 (田麦山小)
 - 6年男子 広井 岳幸 (泉水小)
 - 6年女子 内山 咲 (川口小)



◆800m走

- 5年女子 水落かおる (田麦山小)
- 6年女子 佐藤 杏奈 (田麦山小)
- ◆1500m走
 - 5年男子 森山 翼 (田麦山小)
 - 6年男子 平沢 祐也 (泉水小)
- ◆走り幅跳び
 - 5年男子 堀沢 和磨 (川口小)
 - 5年女子 桜井 葵依 (田麦山小)
 - 6年男子 平沢 祐也 (泉水小)
 - 6年女子 内藤 美穂 (川口小)
- ◆走り高跳び
 - 5年男子 武士侯亮太 (川口小)
 - 5年女子 桜井 彩樹 (田麦山小)
 - 6年男子 広井 岳幸 (泉水小)
 - 6年女子 中林沙枝子 (川口小)
- ◆400mリレー
 - 男子 泉水小A
 - 女子 川口小A

第42回魚沼ライオンズ杯

親善新人野球大会

(8/20小出中学校)

準優勝 川口中学校

第11回かじつか学童野球大会

(9/24、25広神自然公園野球場)

準優勝 川口ファイターズ

震災復興祈念 人形劇を楽しみましょう！

そらいろ人形劇場の皆さんによる人形劇を公演します。町内園児とともに楽しい時間を過ごしませんか。多くの方のご来場をお待ちしています。

日時 **10月4日(火) 10時から**
場所 **生涯学習センター 2Fホール**
上演作品 「さんびきのくま」
「ぬすびととこひつじ」
上演時間 約45分～50分
※入場は無料です

問い合わせ 生活福祉課 ☎89-4418



中越大震災1周年 川口町復興祈念式典を開催

中越大震災から1周年を迎えて10月23日、町主催による「川口町復興祈念式典」を行います。中越大震災で犠牲となられた方々に対して、追悼の意を捧げるとともに、地震での人命救助など功績があった方に表彰を行います。

全国の方々から頂いたご支援に心から感謝し、復興に向けて力強く歩む決意を示すものです。ぜひ、ご来場ください。

時間 16時30分から(黙祷の時間に合わせるため若干の変更あり)
会場 生涯学習センター
内容 ・表彰式(救助の手を差し伸べた個人、地域などを表彰)
・黙祷(17時56分震災犠牲者の冥福を祈る) ・献花
・自衛隊の演奏
問い合わせ 総務課 ☎89-3111

中越大震災1周年 合同追悼式を開催

10月23日、中越大震災の被災を受けた市町(県、長岡市、小千谷市、十日町市、見附市、栃尾市、魚沼市、南魚沼市、川口町)の主催による「新潟県中越大震災1周年合同追悼式」を行いますのでぜひご来場ください。

時間 9時30分～10時30分
場所 小千谷市総合体育館
(駐車場がないため、交通機関を利用してください。)
問い合わせ 総務課
☎89-3111

心の健康相談を開催します

あなたのお悩みをご相談ください

部屋に閉じこもりぎみ、暴力に困っている、ノイローゼ、ぎみ、無気力、痴呆など…。お悩みの方はぜひご相談ください。(完全予約制です)安心して相談できます

日時 10月24日(月)
13時30分～15時受付

会場 末広荘 ☎89-2359

内容 医師による個別相談。家族の相談も受け付けます。※秘密は固く守られます。

担当 医師 稲月先生

申込期限 10月14日(金)

申し込み先 生活福祉課(保健師まで) ☎89-4418

えちごかわぐち物語'05 復興祈念 秋まつりのご案内

10月30日(日)～11月3日(木)

日程及び内容紹介

作品展示

10月30日(日)～11月3日(木)
生涯学習センター
絵画、書道、工芸品、小中学生作品等

おまつり広場

10月30日(日) 10時～15時
生涯学習センター周辺
震災から1年、「食べたり」、「見たり」、「参加したり」、まつりを楽しんで元気をだしましょう。子どもたちが遊べるコーナーのほか、「餅つき」、「よさこい踊り」、「大抽選会」などいろいろあります。このほかに次のようなコーナーがあります。気軽にお立ち寄りください。
・防火PRコーナー
・郵便局コーナー
・中山間地農業技術センターコーナー

芸能発表会

11月3日(木) 13時～
生涯学習センター
町内芸能文化団体などが日頃の練習の成果を発表します。

問い合わせ 農村振興課 ☎89-3113
教育委員会 ☎89-2119



芸能発表会出演者 作品展示出品者募集

申込み期限 10月24日(月)
申込先 教育委員会
☎89-2119

フリーマーケット出店者募集

出店料 200円
申込期限 10月24日(月)
申込先 農村振興課
☎89-3113

児童手当(10月期)を支払います

児童手当の10月期分(6・7・8・9月)を10月7日に支給対象者の指定する金融機関口座に振り込みます。なお、個々への支払通知書は発送しませんので預金通帳などでご確認ください。

問い合わせ 生活福祉課 ☎89-4418

きこの講演会を開催します

どなたでもお気軽にご参加ください。(無料)

期日 10月19日(水)

会場 野山の幸資料館(魚沼市大栃山20-3)

内容

- ▽きこの鑑別と展示 13時から
- ▽講習 13時20分から
- ▽「きこの鑑別について」 講師 日本歯学会会員 中平隆政先生
- ▽試食会(きこの汁をご賞味ください)

問い合わせ 魚沼地域振興局健康福祉部内
小出食品衛生協会事務局
☎025-792-6680

の幸せのために、「里親制度」が大切な役割を果たしています。里親には養育里親、短期里親、親族里親、専門里親の4種類があり、児童の状態に合わせて、里親の家庭を提供いただくこととなります。

問い合わせ 南魚沼児童相談所 ☎025-770-2400

麻薬・覚せい剤乱用防止運動実施中

10月1日～11月30日

「ダメ。ゼッタイ。」は薬物乱用防止の合言葉。今、麻薬・覚せい剤等の薬物乱用は世界中で急増しており、特に次代を担う若者たちに襲いかかっています。薬物乱用は私たちの知らない間に、享乐的な風潮で私たちの社会を腐食・崩壊させようとしています。

10月は里親月間です

近年、児童虐待などで家庭に恵まれない児童が増えていきます。こうした児童の多くは、児童福祉施設で暮らしていますが、児童の健全な成長には、あたたかい家庭での生活が欠かせません。このため、児童

薬物乱用は、乱用者個人の健康上の問題にとどまらず、各種の犯罪の誘引になるなど公共の福祉に計り知れない危害をもたらすものです。薬物に対する認識を高め、麻薬・覚せい剤等のない社会を作りましょう。薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」です。

震災での功績により 川口町消防団 内閣総理大臣表彰受章

昨年の中越大震災で被災者の救出活動などに従事し被害を最小限に止めた功績により、内閣総理大臣から川口町消防団に防災功労章が贈られました。

9月8日、内閣総理大臣官邸において行われた表彰式では、災害現場での顕著な防災活動が認められた町消防団を含む全国の9消防団と1分団のあわせて10団体が表彰されました。



教育委員会委員を選任

教育委員会委員(2名)の任期満了に伴い、8月29日開催の町議会臨時会において、次の方が選任されました。
▽教育委員会委員(敬称略)
大瀨 公男(大形) 再任
山田 智(原新田) 再任

教育長に大瀨公男氏を再任

9月22日、教育委員会が開かれ、教育長に大瀨公男氏(大形)が再任されました。任期は4年です。

長岡地域広域市町村圏 圏民ふれあい事業

ミーティングパーティXI

日時 11月26日(土)
18時~21時
場所 アトリウム長岡
対象者
▽男性 長岡圏域内在住の25歳以上の独身男性40名
▽女性 20歳以上の独身女性40名

申込期間 10月11日(火)~
11月11日(金)(必着)
申込み・問い合わせ
長岡地域広域行政組合
☎ 37-6067

10月は「土地月間」です

「土地月間」講演会開催

「土地月間」行事の一環として国土交通省・県・長岡市が後援する講演会が開催されます。

日時 10月20日(木)
13時30分~16時
会場 長岡グランドホテル
定員 先着200名
参加費 無料
問い合わせ 財団法人日本不動産研究所新潟支所
☎ 025-228-3761

不動産の無料相談会開催

土地月間に関連して、県が後援する不動産無料相談会が開催されます。不動産鑑定士が親切丁寧に対応しますので、不動産の適正な価格や賃料について知りたい方はぜひご相談ください。

日時 10月6日(木)
13時~16時
会場 長岡市役所幸町分室2階8会議室
問い合わせ 県土木部用地・土地利用課
☎ 025-280-5396

町商工会 町にベンチを寄贈 運動公園での休憩に使ってほしい

9月5日、町商工会から町にベンチ8基が寄贈されました。これは蒼丘の杜公園を利用する方が気軽に休憩できるように役立ててほしいと贈られたものです。

このベンチは公園内の多目的広場やテニスコート、また公園内で行われるイベントなどに幅広く活用していく予定です。町商工会の皆さんありがとうございます。



喜多村商工会長から星野町長にベンチを贈呈

知事とのタウンミーティングを開催

魚沼地域の医療問題についてパネリストと泉田知事が、ディスカッションをします。また、ご来場の方との自由な意見交換の時間もありますので、多数のご参加をお待ちしています。

日時 10月31日(月) 14時から
会場 魚沼市地域振興センターコンベンションホール(道の駅「湯之谷」隣、魚沼市吉田地内)
テーマ 「安心・安全な地域医療をめざして」
~望ましい地域医療を考える~
申込締切 10月21日(金)
定員 150人程度
※手話通訳・要約筆記があります。
問い合わせ 魚沼地域振興局企画振興部
☎ 025-792-1302

勝利を目指して三軍競う

川口中学校体育祭を開催

9月13日、第22回川口中学校体育祭が行われました。今年には仮設住宅敷地の川口中学校グラウンドが使用できないため、災害復旧工事が完了し使用できるようになった蒼丘の杜公園多目的広場で行われました。

また、創立30周年にあたることから競技の合間には川中30年の歩みを紹介しました。赤、青、黄軍に分かれた中学生たちは、騎馬戦や綱引き、選抜リレーなどの競技で勝利



に向かって、若い力をぶつけ合いました。保護者、地域の人も一緒に参加した応援合戦では、復興に向けてがんばる川口の応援も行われ、生徒たちの大きな声で蒼丘の杜に響き渡りました。生徒たちの真剣な表情は、訪れた人を清々しい気持ちにしてくれました。

走る!跳ぶ!力のかぎり 町小学校親善運動会開催



9月21日、川口小学校グラウンドにおいて町内3小学校の5、6年生による親善運動会が行われました。

3小学校の児童たちは100m走や持久走などのトラック競技や走り高跳び、走り幅跳びのフィールド競技でお互いの力を競い合いました。競技の合間には他校の児童と仲良く話したり、親睦も深まったようでした。(結果は7ページ参照)

人を思いやることの大切さを教わる

心のケア講演会を開催

8月27日、生涯学習センターにおいて精神対話士の岩本しず子さんによる心のケア講演会が行われました。

阪神大震災当時、神戸市の小学校で校長をしていた岩本さんが震災体験を通して感じた、優しく思いやることや、人の心の大切さ、震災の衝撃を受けている子どもたちへの接し方などをわかりやすく講

演。心温まる話の数々に涙する方もいました。参加者からは「これから子どもの話を聞いてあげる時間を持つようにしたい」「震災という同じ体験をした話に勇氣をもらいました」など有意義な講演に感激していました。



身近な情報をお寄せください!

企画商工課
TEL 89-3112



元気モリモリ コンロひとつでアイデア料理

カレー肉じゃが



じゃがいもは、でんぷんを14～18%含み、ビタミンCの含有量も多い。また加熱しても壊れにくいビタミンCです。このじゃがいもをたっぷり使い、みんなの好きなカレー味にしました。

●材料(4人分)

- じゃがいも……………中3個
- 玉ねぎ……………1/2個
- にんじん……………1/3個
- いんげん……………1/2パック
- 豚ひき肉……………150g
- サラダ油……………適量
- カレールー……………50g
- しょうゆ……………大さじ2
- 砂糖……………大さじ1

●作り方

- ①じゃがいもは2cmくらいのサイコロ状に切る。玉ねぎも2cm程の四角に切る。にんじんはじゃがいもよりも小さめのサイコロ状に切る。いんげんは2cmほどの長さに切る。
- ②鍋を火にかけて油を熱し、ひき肉を炒める。この中にじゃがいも、玉ねぎ、にんじんを加えて炒め合わせる。全体に油がまわったら、ひたひた程度のお湯を加えて煮る。
- ③じゃがいも、にんじんが少し固めの状態で、いんげん、カレールー、砂糖、しょうゆを加える。水分がなくなるまで煮含め、味を調える。

「コンロひとつでアイデア料理」は食生活改善推進委員が紹介しています



右から
涌井 智子(前原) ☎89-3682
小見智恵子(大形) ☎89-2709

元気です！かわぐちっこ 98

かな
星野 加夏 ちゃん(川口4・3歳)
おとうさん おかあさん
義彦さん 尚子さん



ブランコは楽しいな

食べ物に好き嫌いのない加夏ちゃん、なかでもりんごが大好きです。最近アニメ「ふたりはプリキュア」がお気に入り。プリキュアのおもちゃをたくさん持っています。外で遊ぶことが好きで砂遊びをよくしています。海に行くと大喜びで水遊びをする加夏ちゃんでした。

俳句

大内迪子先生選 公民館句会(8月6日)

○避難せし同じ広場に夏祭
○海釣りの日焼の夫の腕かな
○掃苔や先祖に語る地震の事
○一匹の螢に部屋に消した花
ご先祖に詫びつつ迎へ盆の墓
この家も客あり線香花火せる
家業とて火を止められぬ酷暑かな
風入れてなに気兼ねなく三尺寝
大花火色を重ねて落ちて来る
晴天に目をいたはりて日傘さす
地震の後の埃の中の油照
涼風に働き過ぎと思ひつつ
復興のほんほり下げて夏祭
絹の着物形見に遺し母は逝き
昆布干す日焼の海女の歯の白し

- 山田 チヨ
- 藤田 節子
- 山田 久子
- 村山むら女
- 石坂 シゲ
- 岡村佐和子
- 上村たつお
- 佐藤 信
- 鈴木 良仙
- 星野 きの
- 丸山 トシ
- 丸山 好枝
- 三輪 京子
- 目黒 せつ
- 森山 菊江
- 渡辺登子一

次会のお知らせ

10月7日(金)生涯学習センター 5句投句 投句締切 13時
町民俳句大会
10月30日(日) 9時 末広荘

皆さんのページです。投稿をお待ちしています！
企画商工課 ☎89-3112

みんなの広場

狛江市民と寄りあいつい

木沢地区と游川の会が狛江市民と交流

9月2日、3日、狛江市から地域センター役員・利用者35人が来町し、木沢地区住民と游川の会の皆さんと交流しました。

9月2日は中越大震災の経験を木沢の皆さんから聞きながら、被災箇所を見学、その後、同地区と狛江市の4地域センターの皆さんとの「寄りあいつい」が行われました。

寄りあいついでは、木沢地区からは中越大震災での狛江市からの



救援に対するお礼の言葉を、狛江市からは復興に向かっている激励の言葉を交わし、狛江市民は、木沢自慢のそばや山菜料理に舌鼓を打ちながら、皆でゲームや踊りなどを楽しみました。また地域センターから同地区に記念の大鍋が贈られました。

翌3日は、川口やなにおいて、游川の会との交流が行われました。游川の会と狛江市地域センターの交流は、狛江市で行われている多摩川いかだレースに游川の会が出場した際、地域センターの皆さんから温かいもてなしを受け

たことがきっかけです。游川の会、自慢の焼きだての鮎にお酒も進み、2匹3匹とおいしそうにたいらげっていました。

区域センターのみなさんは、このほか、リニューアルオープンした和楽美の湯で、温泉を堪能、あぐりの里では新鮮な野菜を土産にしていました。中越大震災で宿泊施設が使えず、町外での宿泊となりましたが、地域センターの皆さんは川口町を満喫していました。

わたしの復興への願い

震災から復興への思いを綴る

震災体験と復興に向けて自分なりにがんばっていききたいことなど、思いを込めて書いていただきました。

家の再建に向けてがんばります

桜井マサノ(大谷内)



桜井三郎さん(左)とマサノさん(右)

遊亀庵の厨房で揚げ物をして

たとき突然ドーンという衝撃とともに鍋が目の前まで浮き上がった。とつさに油を避けて後ろに転んだ。そこに天井の蛍光灯や食器類がガチャガチャ落ちてきて、なにが起こったかわからないまま、お客さまを外に連れ出し、私もやっとの思いで外に出た。必死だったのでよく分りませんでした。が、転んだときに膝を打っていた。車に乗せてもらい田舎山へ帰ろうとしたが、川口橋が通行止めになっていたので、そこから歩いて帰ることにしました。やな場周辺まで来ると打った膝の痛みが増し、少し横になって休みました。

誰もいないシーンと静まり返った中で、川の流れる音だけが不気味に聞こえていました。山や道路があちこちで崩れていたため、暗闇の中、足をかばいながら、足元に注意しながら歩いて田舎山に入ったとき、「大丈夫か」という声を聞き、「やっとなにに会えた」と思った瞬間、涙がこぼれ落ちました。

夫は自宅でテレビを見ながら横になっていたので、体が宙に浮いたような衝撃を受け、同時にテレビが前に飛び出し、ストーブの火がバツと燃え上がったので、急いで火を消して外に出たそうです。夜遅くなって避難場所でお互いの無事が確認できた時は、とにかくほっとしました。夫は裸足で外に出たため、足を切っていました。震災の時もみんなが大変な中で、人に甘えないようにしてきました。今も仮設住宅に住んでいますが、これからも二人で助けあって、正月までには新しい家に住めるようがんばっていきこうと思います。